

「教育実習Ⅱ（幼稚園）」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 田 中 崇 教

I はじめに

本稿は2023（令和5）年度「教育実習Ⅱ（幼稚園）（以下、本科目）」の指導内容を整理・すると同時に省察することによって、授業（教授）改善をめざすことにねらいがあり、これらを報告するものである。幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する教育学部幼児教育コース（以下、本コース）2023年度3年次生（45名）を対象とした本科目は、幼稚園で実習を行い、幼稚園教諭に必要な実践力の涵養を目的とする。本科目及び教育実習Ⅲ（幼稚園）で使用するテキスト^{*1}（田中ほか2023）では、教育実習の意義を次の5点に集約する。①教育の理論と実践の一体化、②基本的教育技術の習得、③発達期にある幼児の理解、④教育の人間関係における相互作用についての学修、⑤教師としての自覚の高揚

II 実施概要

1. 日程

2021年度より本科目は第6セメスタ（3年次後期）での開講科目になった。今年度はその2年目にあたる。事前指導は2022年度前期及び後期に、事後指導（報告会を含む）は2022年度後期に計画した。具体的には、以下に示すとおりであり、全て計画どおりに遂行した。

1-1 事前／事後指導

- 第1回 2022年6月15日（木）14：50-16：20
教育実習に関する基本理解，課題の確認 他
- 第2回 2022年6月29日（木）14：50-16：20
教育実習に関する理解の深化，実習園事前訪問に関する理解，課題の確認 他
- 第3回 2022年7月20日（木）14：50-16：20
教育実習に関する情報交換，今後の予定（変更を含む）の確認 他
- 第4回 2022年9月27日（水）各実習園が指定する時間帯
実習園事前訪問
- 第5回 2022年9月28日（木）13：10-14：40
教育実習に関する最終確認，事後課題の確認 他
- 第6回 2022年11月29日（木）13：10-14：40
事後指導，「事後考察課題」の確認 他
- 第7回 2022年12月8日（木）13：10-14：40
教育実習Ⅱ（保育実習Ⅰでの学びを含む）の振り返りに関するグループワーク
- 第8回 2022年12月14日（木）13：10-14：40
教育実習（保育実習Ⅰでの学びを含む）の振り返りに関する討議
- 第9回 2022年12月21日（木）13：10-14：40
実習の振り返り報告を終えての振り返り，教育実習Ⅱの総括一次の実習に向けて—
なお，第9回目の事後学修として，実習園からの評価に関わる個別指導をすべての履修学生に行った。

1-2 実習期間および実習協力園

2023（令和5）年度は、二葉学園を新たに加え次の7園になった。この7園に45名の学生を2期間に分けて配置した。

学校法人龍花学園三入幼稚園，学校法人菜の花学園菜の花幼稚園，学校法人広島府中教会学園こばと幼稚園，学校法人微妙学園みみょう幼稚園，学校法人明星院学院認定こども園二葉学園，学校法人武田学園広島文教大学附属幼稚園，学校法人有明学園かえで幼稚園

1期 2022年10月11日（火）開始，10月24日（月）終了。（10日間）

2期 2022年10月31日（月）開始，11月14日（月）終了。（10日間）

ただし，各園の事情に鑑み，若干の日程更があった。

なお，実習期間中には体調不良を理由とする欠席者や早退者，遅刻者がいた。だが，いずれも実習園の取り計らいにより，所定の時間を満たす実習を全ての学生が執り行うことができた。改めて，実習協力各園，本学教職センターのご支援・ご協力に感謝申し上げる。

2. 2023（令和5）年度における指導・運営上の特徴

2-1 関連する授業科目間連携及び系統的指導体制の構築

2021年度から本科目が第6セメスタでの開講となったため，保育実習Ⅰ（第5セメスタ）が先に実施されることになった。本科目の事前指導が保育実習指導ⅠB（第5セメスタ）と同時期に実施されることを活用し，「実習生としての服務」，「対象理解」，「実習課題の設定と振り返り」，「実習評価」の点で本科目と保育実習Ⅰが連携し，指導内容や方法，関係資料（実習評価票など）を統一した。先述した，第6回，第7回は保育実習指導Ⅱの授業として行われたが，「対象理解」の観点で本科目での学びも含め授業を行った。また，今年度から本コースの学生が履修する幼児教育の体験活動（第3セメスタ）との連携を図った。具体的には，「対象理解」に関する指導事項である。

指導内容や資料の表記を統一すること，各科目の担当教員が指導上の系統性（次段階の授業科目につなげる）を意識することにより，履修学生は授業科目が異なれど，指導内容を混乱することなく理解することができる。それは，実習を円滑に進めることを期待するものであった。

2-2 使用テキストの改訂

本科目は，教育実習Ⅲと連携しテキストを作成及び改訂している。実習の目的・意義，実施内容，職務上の倫理観等について解説・演習を行う資料として用いている。

今年度の改訂点として，2022（令和4）年度の省察や改善，とりわけ保育実習等との連携（統一的指導）を踏まえ，先述のとおり，「実習評価票」，「自己評価」及び指導上の表記の統一を行った。

2-3 学生の責任感の涵養

今年度の新たな試みとして，可能な限り多くの学生に統括者としての役割を課し，責任感の涵養を図った。各学生が役割を担うことで，とりわけ，実習中（今後の保育実習Ⅱや教育実習Ⅲを想定）に各園で様々な役割を任される際に，学生が円滑に業務を進めることができるようあらかじめ経験しておくことをねらった。

Ⅲ おわりに—成果と授業改善にむけて—

今年度も本科目の全ての計画を完遂できたことが大きな成果といえる。また，事前／事後指導を通じて，学生の責任感の涵養を図った。その成果は最終の振り返りシートからも確認できる。

改善点として，教育学科カリキュラムの改訂に基づく幼児教育コースにおける実習科目群で学びの体系化がある。今年度もその途上段階であるため，引き続き関係教員と連携し取り組む予定である。

※i 田中崇教・杉山浩之・平山祐樹（2023）『教育実習のてびき・記録（幼稚園教諭一種免許状）』広島文教大学